

# 投資家向け説明会

2020年6月

日産車体株式会社

## 【1. ご挨拶】

それでは、目的事項であります、報告事項1、第97期、すなわち、2019年4月1日から、2020年3月31日までの、事業報告の内容、連結計算書類の内容、続いて、報告事項2、第97期計算書類の内容につきまして、ご報告を申し上げます。

## 【2. 企業集団の現況】

まず、企業集団の現況に関する事項のうち、事業の経過、及び、その成果につきまして、ご説明を申し上げます。

当連結会計年度の第3四半期までの経済環境は、国内では緩やかな景気回復基調が続きました。

企業の生産や輸出は、海外景気の減速や、貿易摩擦の長期化などを背景とした外需の弱含みによる影響で低迷が続きましたが、個人の雇用・所得環境は、改善傾向を持続し、個人消費も台風や、消費増税の影響による下振れがあったものの、増加基調へと緩やかに回復致しました。

一方、第4四半期において、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が進行し、当社グループの属する、国内の自動車生産事業においては、サプライチェーンへの直撃による、生産活動の停滞に始まり、世界的な新車需要が急減するなど、極めて不確実性の高い状況が続くと考えられ、取り巻く経営環境の厳しさは、一段と増しております。

## 【売上高】

このような経済情勢の下、当社が、日産自動車株式会社から受注しております自動車は、全体需要の鈍化などにより、前連結会計年度と比べ売上台数は、20.7%減少の、18万2千286台、売上高は、17.3%減少の、4千988億円となりました。

## 【損益】

次に、損益面でございますが、売上高の減少はあるものの原価低減や生産性向上への迅速な取り組み等により、営業利益は、19.5%増加の93億円、経常利益は、19.9%増加の98億円、となりました。

また、親会社株主に帰属する、当期純利益は、「アルマーダ」の湘南工場での補完生産終了に伴い、当該専用設備の減損損失9億円を特別損失に計上した結果、前連結会計年度に比べ、4.3%増加の58億円となりました。

## 【資金調達】

次に、当連結会計年度は、特記すべき資金調達は実施しておりません。

### 【設備投資】

続きまして、当連結会計年度の、設備投資の状況につきまして、ご報告致します。

設備投資の総額は、約84億円で、新商品、マイナーチェンジによる商品力強化と、生産設備の合理化、厚生施設の改善、環境改善など、諸設備の充実強化に努めました。

### 【連結計算書類】

#### 【連結貸借対照表】

次に、連結計算書類でございますが、

まず、2020年3月31日現在の、連結貸借対照表の、概要につきまして、ご説明を申し上げます。

資産の部合計は、2千647億円となりました。

その内訳は、流動資産が、2千077億円、固定資産が、569億円で、38億円の減少となりました。

一方、負債の部合計は、959億円となりました。

その内訳は、流動負債が、808億円、固定負債が、151億円で、前期末に比べ、65億円の減少となりました。

また、純資産の部合計は、1千687億円となりました。

その内訳は、株主資本が1千711億円、その他の包括利益累計額が、マイナス24億円で、前期末に比べ、27億円の増加となりました。

### 【連結損益計算書】

次に、第97期の、連結損益計算書の、概要につきまして、ご説明を申し上げます。

先ほど申し上げました、当社と、連結子会社各社の事業活動の結果、当期の経常利益は、98億円となりました。

また、特別損失は、固定資産除却損等、12億円を計上し、この結果、法人税等を差し引いた、親会社株主に帰属する、当期純利益は、58億円となりました。

### 【3. 対処すべき課題】

続きまして、「対処すべき課題」のご報告をさせていただきます。

### 【2019年度振り返り】

まず、2019度の生産台数の実績です。

2018年度の23万台、2017年度の21万2千台に対して、中東の減産や新型コロナウイルスによる影響等で大きく下回り、18万2千台となりました。

次に、生産工場の体制です。

日産車体九州は2019年6月から、それまでの3班3交替勤務から、2班2交替勤務に変更しました。

湘南工場は2020年1月末をもって、アルマーダの補完生産を終了し、湘南工場、日産車体九州とも市場要望の変化に合わせ、台数に応じた最適な生産体制に変更しております。

2017年に発覚した、完成検査の不適切な取扱い問題については、最適な完成検査ラインの構築、完成検査員の育成などの再発防止の取り組みが順調に進み、14項目93アイテムの全ての再発防止項目について、実行フェーズへの移行が完了しました。

今後も決して風化させることなく、維持向上に努めてまいります。

### 【新型車】

次に昨年度、発表発売されました主な新型車について、ご紹介致します。

まず、中東向けパトロールは、今回のビッグマイナーチェンジで、フロント・リヤの外観を一新しました。また、8インチプラス7インチの2画面からなる、日産初の新しいナビゲーションシステムを採用いたしました。

NV200バネットは、歩行者も検知する衝突被害軽減ブレーキなどの、先進安全装備を充実させました。

今回のマイナーチェンジにより、日産車体の全ての国内向け生産車が、高齢運転者を対象とした「サポカー補助金制度」の対象となっております。

### 【2020年度取り組み】

以上が、昨年度の振り返りについてのご説明となります。引き続き、2017年からスタートしました中期経営計画の柱に沿って、2020年度の主な取り組みについてご説明いたします。

### 【商品の競争力】

はじめに、今年度の新型車についてです。

マイナーチェンジを予定しており、計画通り開発を進めております。

現在、新型コロナウイルスの影響により、販売台数が低迷しておりますが、収束後は復興とともに、当社車両についても販売の巻き返しを図りたいと考えております。

現地販売店も大いに期待しており、私どももその期待に応えるべく、開発・生産一体となって、高品質な車両をお届けするよう、準備を進めてまいります。

### 【工場の競争力】

続いて、工場の競争力についてご説明いたします。

まず、品質に関するトピックスです。

日産圏の国内市場 初期品質評価において、昨年度、NV150ADが3年連続の1位、NV200バネットも3年連続の2位、NV350キャラバンも3位となり、当社製品がTOP3を独占する結果となりました。

それ以前も含めて、当社の製品がトップレベルを維持し続けております。

今年度も引き続き、日産圏トップレベルを維持できるよう取り組んでまいります。

さらに、湘南、日産車体九州ともに、設備総合効率の向上および、固定費の適正化に継続して取り組み、工場の品質・コスト・スピードの競争力強化を目指してまいります。

現在、上半期については輸出車を中心に減産しておりますが、下半期に事態が収束した後は、台数変動に臨機応変に対応できるよう、人員・設備・生産システム等の準備を進めております。

#### 【技術・技能の競争力】

続いて、技術・技能の競争力です。

こちらは、当社が独自技術として取り組んだ、昨年度までの技術開発テーマの実績と、今後取り組む課題の登録状況を示しております。

更なる先進安全装備の技術開発、SUV車のオフロード走破性向上、新型フレーム構造開発や、バックドア組付け自動化など、ひとつひとつ着実に将来の新型車に向けた技術を蓄積してまいります。

#### 【すべての活動を支える基盤】

最後に、すべての活動を支える基盤についてご説明いたします。

当社では、ライフステージに応じたワークライフバランスの適正化を実現し、働く人すべてが、その能力を十分に発揮できるよう、継続した活動を推進しております。

昨年度より、各種制度を利用しやすい環境づくりに取り組んでおり、今年度も継続してまいります。

特に今年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策として、本社部門を重点に在宅勤務を拡大しております。

現在までに在宅勤務実施率70%以上で実践しており、継続してまいります。また、新型コロナウイルス収束後も本取り組みを継続し、リモートでのコミュニケーションの取り方についても改善を図りながら、働き方改革に繋げていきます。

続いて、冒頭でも申し上げましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療現場で不足している用具などの支援活動についても、最大限の取り組みをさせて頂いております。

4月にはフェイスシールドやその構成部品を社内で製作して、平塚市や神奈川県などに提供いたしました。

また、工場で使用する防塵マスクの予備品を医療現場に寄贈、更には大学の研究機関の要請に基づき、軽症者搬送用の試作車を製作し、納入しております。

また、行政より依頼を受け、医療従事者用のガウンも社内で製作し、神奈川県、福岡県にそれぞれ納入いたしました。

モノづくりで培った経験・知見を活かし、使用される方のご意見・ご要望を聴きながら試作を繰り返して、高品質な密封ガウンを効率よく生産することができました。

6月2日より出荷を始めておりますが、医療現場からも好評との声を頂いており、今後も引き続き支援活動を継続してまいります。

また、当社では、事業所内のコロナウイルス感染予防対策として、国や経団連の指導要領を順守して生産を続けております。具体的には、検温、マスクの着用、手洗い、殺菌消毒、換気などの基本動作の徹底を 継続しております。

また、本社部門の在宅勤務拡大、リモート会議や時差出勤による3密回避、更に、事務所や食堂の飛沫感染防止パーテーションなどの対策も実施しております。これらの感染予防対策を徹底し、安全を確保したうえで、社会生活など各産業にとって必要不可欠な 当社生産車の市場ニーズにお応えできるよう、生産運営を継続してまいります。

対処すべき課題についてのご説明は、以上となります。

以上、事業報告の内容、連結計算書類の内容につきまして、ご報告を致しました。

#### 【4. 2020年度の業績見込み】

例年であればここで、2020年度の当社の業績見込みについてご説明させていただきますが、現時点では、新型コロナウイルス感染症に伴う影響により、合理的な算定が困難なため、「未定」であります。算定が可能になった時点で、速やかに開示をさせていただきます。

#### 【5. 閉会の挨拶】

当社を取り巻く環境は、依然不透明な状況ではございますが、皆様におかれましては、従来にも増した、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。